

「眞田丸、眞田氏三代探訪記」の中から抜粋

関口貞雄（48期、関西同窓会）

白土三平と忍者劇画

子供漫画の世界に忍者劇画と云う新しいジャンルを切り開いたのが白土三平（本名岡本登、1932年2月東京生、48期扱い:編者注）であると云われている。

代表作としては「サスケ」（1961－1966）、「カムイ伝」（1964－1971）、「カムイ外伝」第一部（1965－1967）、「カムイ外伝」第二部（1982－1987）等があげられる。

手塚治虫によると、「白土三平が登場してから、子供漫画の世界に重厚なドラマが現れ、リアリティやイデオロギーが持ち込まれた。」と評したと云われる。

昭和19年（1944）4月、旧制上田中学校1年に東京からの疎開者、浅黒い顔のスマートな都会子岡本登君が転校編入してきた。この時を並べて座ったのが鈴木毅君で、二人は直ぐに仲良しの友達となった。当時のクラスには東京からの疎開者が他にも何人かおり、疎開者を疎外したり、苛めたりすることは全くなかった。最初岡本君は中塩田村へ疎開し、程なく眞田町に転居し、長村出身の鈴木君とは一緒に通学していた。

戦時中なので音楽、美術の時間は軍事教練に振り向けられ、残念ながら岡本君が絵の才能を発揮する機会は殆どなく、我々も見る機会がなかった。

眞田町で約一年半を過ごした岡本君は鈴木君に案内されて、眞田氏の本城跡、松尾古城跡、角間峡と眞田十勇士、忍者伝説等を見て廻り、毎日上田中学校の古城の門を出入し、上田城へも何回か訪れ、眞田一族の活躍を見聞きた。

これ等が後年の彼の創作と想像力をかき立てる原点になったと考えられる。

彼の父岡本唐貴氏はプロレタリア画家で、被差別部落の人々、朝鮮半島から来た人々等当時虐げられた下層の庶民を描いた。従って特高警察に目をつけられて拘束され、拷問を受けて脊髄カリエスを患ったと伝えられる。終戦となり帰京した岡本君は、父親を継いで画家を志して修業し、父親の友人を通じて被差別部落の人々の虐げられた歴史を学んだと云う。その結果誕生したのが「カムイ伝」で、被差別部落出身の忍者カムイが主人公となり、下人、農民等の下層階級と支配階級の武士との戦いを劇画と云う新しい手法で力強く描いた。出版されたのが昭和39年（1964）東京オリンピックの年で、60年代の学生運動が盛んであった頃なので、階級間闘争が彼等によって共感され、支持された。その後テレビドラマ化、映画化されて一般に幅広く紹介され、高い評価を受けている。

白土が最初に描いたのが「甲賀武芸帳」「忍者武芸帳影丸伝」「サスケ」等の通常の活劇忍者者であったが、「カムイ伝」で新境地を開き、「カムイ外伝」を続編として執筆してライフワークとし、現在もなお続編を構想中とのことで、息の長い作家人生を送っている。

昭和45年（1970）年の大阪万博の頃、同級生だった鈴木毅君が若くして病死した。

長村で行われた鈴木家の葬儀に同期生の何人かが出席したが、その中に一人の白土ファンがいて、「あの人は白土三平ではないか？何故あの超人気作家がここにいるのだろ

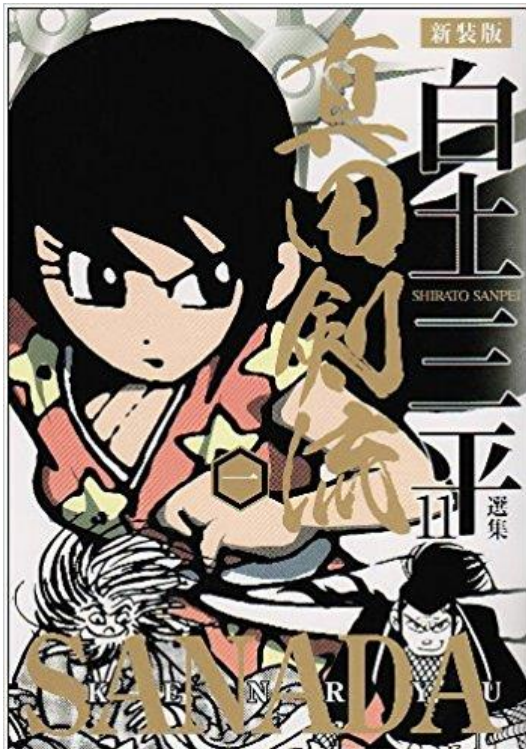
う？」と不思議に思っただらしい。他の同期生が白土三平と岡本登君が同一人と知っていて、鈴木君と岡本君の交遊を思い出して話題となったと聞く。

終戦前後のあの食糧難だった頃、農家の鈴木家から食料を分けて貰い、その代わりに岡本君が鈴木家へ農作業の手伝いに行っただらしい。岡本家の生活は父親の職業柄かなり苦しかったようだ。その恩義を忘れずに、岡本君は白土三平としての超多忙な時間を割いて東京から葬儀に参列したのであった。

岡本登君の最初のペン・ネームは「ノボル」であったが、途中から「白土三平」に変えた。白土は上田中学校の軍人教練教官白土牛之助に由来し、三平は戦後東京へ戻った時に近所の子供達から、「イチコの三ちゃん」とあだ名で呼ばれたことと書いているが、私の想像では、本名の岡本から政治漫画家岡本一平(岡本太郎の父)を目標にして命名したものと思われる。教練教官白土牛之助は陸軍大尉で、典型的な侍型の職業軍人で、全校生徒に「背面行進」と称して背中を地面につけて行進する荒っぽい軍事教練を行った。こんな強い男に彼は憧れたのであろう。

白土三平の劇画を見て私は江戸初期の画家岩佐又兵衛の絵を連想した。岩佐は戦国武将荒木村重の子で、村重は織田信長に謀反を起こし、羽柴秀吉に居城の有明城(伊丹市)が攻撃され、有明城は陥落した。一族が捕らえられ、正妻を含め一族子女全員が処刑されたが、当時2歳であった又兵衛は乳母によって匿われて救われた。成人となり絵師として名を挙げた又兵衛は、処刑された一族の怨念を筆に込め、凄惨な場面を美しく表現して世に認められる発端となった。白土の絵にも権力を背景に父親を拷問し、脊髄カリエスへと追い込んだ特高警察への恨みが籠っている。

権力者の武士に反抗する下人の忍者カムイはその恨みを追いつけていたのである。



(本稿は2017年、関西同窓会フェイスブックに連載された原稿の一部を編集)